

ハートフルかみす

大型フォークリフト女性オペレーター



家族や仲間とともに



犬・猫の気持ちに寄り添って

人材育成と女性活躍 継続に向けて	P2・3
輝くひと	P4~7
ピーマンタイム 男女共同参画社会って?	P5
未来へつなぐ一歩	P7
デジタルフォトコンテスト 入賞作品結果発表	P8



人材育成と女性活躍 継続に向けて

中国木材株式会社は、製材事業を核とした住宅用構造材の総合メーカーです。今年度、男女共同参画推進事業者として表彰された鹿島工場を訪問し、女性の職域拡大や環境整備などについてお話を伺いました。

女性の活躍を推進

中国木材では、会社の基本方針の中で「女性が活躍できる職場」を重点項目として掲げ、さまざまな男女共同参画の取り組みを行なっています。かつて男性社員が圧倒的に多かった職場



管理課 長原さん

も、鹿島工場では約20パーセントが女性社員となり、女性の就業率が上がっています。また、女性役職者の登用にも積極的に取り組んでいます。

環境整備

「女性社員は結婚や出産後に退職する方が多かったんです」と管理課の長原さんは言います。そこで、女性社員

に仕事を続けてもらうためにさまざまな取り組みを行なっています。その一つとして、育児休暇を経験した女性社員が、入社間もない社員に対して、育児や時短勤務などの制度を説明する場を設けています。キャリアプランをより実感してもらうことで、将来の妊娠・出産に対する漠然とした不安の解消を図っています。ここ数年では育児休暇取得者全員が復職しています。

社員それぞれに合った働き方を一緒に考え、生計働いてもらえる環境作りを力を入れています。

「離職者の少ない組織づくりを目指すことが、結果として、女性雇用促進の基盤につながると考えます」と物流課の西井課長は言います。女性社員の増加に伴い、中長期的な視野で人材教育を行なっています。例えば、フォー



物流課 西井課長

クリフトの作業は男性がするものとするイメージを変え、女性も技術職として活躍を明確にし、女性も技術職として活躍

できるための教育に力を入れています。

職域の拡大

鹿島工場には、重い木材を運ぶための大型重機が140台以上あります。従来フォークリフトオペレーターは男性のみでしたが、現在では、女性もその業務を行なっています。ここ数年は、高校新卒の女性社員3名が本人たちの希望でフォークリフトオペレーターとして働いています。

今までの工場事務所からイメージチェンジ



令和7年2月に完成した新事務所棟では、従業員の声をもとに、女性専用のパウダールームや救護室も設置されました。

社会の変化に柔軟に対応し、着実な歩みで女性が活躍できる強い組織づくりを目指していると感じました。

令和6年度 神栖市男女共同参画推進事業者表彰 受賞者

神栖市では、地域や職域において男女共同参画の推進に積極的に取り組んでいる事業者・団体・個人を表彰しています。今年度は、中国木材株式会社鹿島工場を表彰しました。

中国木材株式会社 鹿島工場

主な取組

女性活躍・職域拡大

フォークリフトオペレーターとして女性が活躍

人材育成カリキュラム

女性も現場で技術職として活躍できるよう、アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)を払拭する教育や適性に応じた人材配置

働きやすい環境整備

新事務所棟には、女性専用のパウダールームや救護室を完備



管理課 主任 長原さん、工場長 柚山さん、石田市長

大型フォークリフト女性オペレーター

物流課で大型フォークリフトオペレーターとして活躍している田畑さんにお話を伺いました。



物流課 田畑 杏奈さん(神戸市出身)
大型フォークリフトオペレーター。
入社3年目で港湾荷役作業を行なう。
中国木材株式会社の全国数力所にある事業所の中で、この業務に従事する初めての女性。

— この仕事を選んだきっかけはなんですか？

「祖父と父が、現場の仕事で重機に乗っている姿を見てカッコいいと思い、私も乗りたいと思うようになりました。もともと体を動かすことが好きで、事務職より現場が向いていると思っていたのですが、会社見学時に先輩がフォークリフトに乗って作業する姿を見て、私もこの場所で働きたいと思いました」

— オペレーターになった経緯を教えてください

「社内の女性ではまだ誰も従事したことがない大型フォークリフトオペレーターに魅力を感じ、努力しました。入社後にフォークリフトの免許を取得し、3tや5tの小型フォークリフトで経験を積みました。その後、工場から出る製品の運搬

やトラック出荷業務で経験を重ね、念願の大型フォークリフトオペレーターになりました。現在は、港湾荷役作業に従事しています。自社の港で木材の積み下ろしや運搬の作業を16tフォークリフトで行なっています」

— やりがいや大変なことはありますか？

「大型フォークリフトで港湾荷役作業に従事する女性はまだ初めて、ということにやりがいを感じています。フォークリフトの運転は、視界が狭くなるので注意力がとても大事です。積み上げた木材が倒壊しないよう、常に気を張りながら、何度も練習を重ね、必要な感覚を身に付けるよう努力しています。覚えることがたくさんあって大変ですが、上司や先輩にほめてもらえたときには、頑張ったと思えます」

— 将来やりたいことや目標はありますか？

「結婚、出産しても仕事を続け、楽しさややりがいを持ちながら、女性でも現場で頑張っていけるということを実感していきたいです。私を見て、この仕事を頑張ってみたいと思える人が後に続いてほしいと思っています」

将来は、みんなを引っ張っていける役職者を目指しています。相談しやすく、親しみのある先輩になって、職場の人たちの声を聴き、誰もが働きやすい環境づくりにつなげていきたいです」

中学から高校までの6年間は、ソフトテニス部に在籍し、趣味としてサイクリングをするなど、活動的な田畑さん。将来の目標について明るく語ってくれた姿に、強い意志を感じました。取材後は、笑顔で「真面目に答えすぎちゃったかなあ」と言いながら業務に戻ると、目の前の木材を、滑らかな動きで船まで運ぶ姿を見せてくれました。

生き生きと輝く姿を見せてくれた田畑さんの今後の活躍を応援しています。



輝くひと

1

犬・猫の気持ちに寄り添って

NPO法人

わんにゃんレスキューOHANA^{オハナ}

代表 松本恵美さん

皆さんは、神栖市の野良犬・野良猫の状況を知っていますか？

茨城県では、犬・猫殺処分ゼロを目指していますが、毎年多くの犬や猫が、県内の市町村から県動物指導センターに収容されています。その中でも神栖市は、市町村別の犬・猫収容頭数で上位に入っています。

神栖市からの収容数をゼロにするために、日々保護活動をしている松本さんにお話を伺いました。

●きっかけ

松本さんは、8年ほど前に神栖市に引っ越してきました。以前から、他県の保護団体で子犬の預かり、譲渡をする活動をしており、神栖市には、野良犬や野良猫が多いことを仲間から聞いていました。実際引越して



きてみると確かに野良犬も野良猫もたくさんいました。

県のセンターには、どのような経緯で収容されたのかは分かりませんが、子犬がたくさん収容されていました。この子犬たちの母犬はどうしているのか。母犬の気持ちになり、「もし自分の子が急にいなくなったら」と考えると、いたたまれない気持ちになりました。何かできることはないかと考え、始めたのがOHANAの活動です。自分たちで捕獲から行なうなど、地域に密着した活動をするため、NPOを立ち上げました。

●ボランティア

現在一緒に活動しているのは54人で、そのうち男性は5人で、大多数が女性ですが、イベントなどではボランティアスタッフのご家族の方も協力してくれています。

●活動内容

「ゼロカミプロジェクト」

行政や一般の方、他団体との垣根を越え、みんなで神栖市の野良犬をゼロにしようという活動をしています。

子どもを産むメス犬や子犬を捕獲し、保護してから、必要なケアを行ない、譲渡につなげます。野良犬の捕獲は比較的簡単ですが、「人は怖い」と生きてきた犬を家庭に受け入れてもらえる犬にすることはとても難しいです。

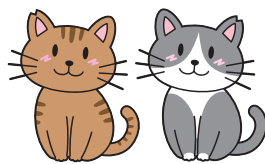
野良犬は、群れでお互いを守り合って生きていて、野良犬のままでいる方が幸せかもしれないけれど、狂犬病予防法では、法律上捕まえないければならず、捕獲がつかなくなる時もあります（涙）。

「100 livesをくら猫活動」

年間100頭を目標に、野良猫を捕獲（トラップ）、不妊・去勢手術を行ない（ニューター）、元の場所に戻す（リターン）という「TNR」活動に取り組んでいます。手術を行なった印として、オス猫は右耳、メス猫は左耳を桜の花びらの形にカットし、元いた場所に返しています。TNRを知らない方が多いので、一人でも多くの方に知ってほしいと考えています。

「OHANAしっぽ研究所」

学校の長期休みを利用して、子どもたちを対象に啓発活動をしています。犬・猫も人と同じように感情があることや大切な家族であること、紙芝居の読み聞かせやゲーム、かるたで一緒に楽しく遊びながら伝えていきます。今すぐに結果が出なくても、10年後、15年後に、これらの活動を一緒にした子どもたちが大人になるころ、神栖市の現状がどのよ



うに変わっているかとても楽しみです。

●ペット防災

昨年7月の総合防災訓練で初めてペット同行避難訓練が実施されました。訓練を実施すると課題がたくさん見つかりました。

例えば、避難所には、犬や猫が嫌いな人や怖いと感じる人、アレルギーを持つ人もいるので、犬も猫もクレート（移動できる箱形のハウス）に入れなくてははいけません。日頃からクレートに慣れるための練習をしておくとういと思います。また、大規模な災害が起きたときは、ペット同行避難は難しくなることが予想されるので、市役所が中心となり、近隣市町村や獣医などと連携できる体制を整えておく必要があると思います。



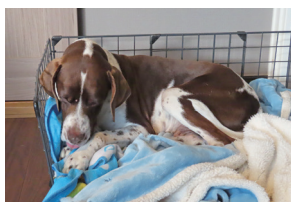
イベントでの譲渡会の様子



●心がけていること

実際の保護活動では、犬や猫の悲惨な状況を見たくないと感じるところもあります。虐待されていた犬を保護するときにきかれて、7針も縫うけがをしたこともありましたが、その犬も今ではしっぽを振ってかわいい姿を見せてくれます。保護した犬に家族ができる、犬は自信に満ちあふれた顔になって幸せそうなんです。だから、どんなに活動が大変でも逃げられない。というより、自分が少し動けば何かが変わると思うと逆にワクワクします。このような思いが活動を続けるエネルギーになっています。

それでも、私は24時間ずっと犬と一緒にいたいタイプでもありません。一人で頑張りすぎてしまうと、どうしても活動を続けることがつらくなってしまう。そんなときは、同じ目標を持つ仲間をお願いして、自分の好きなことをする時間を持つようにしています。息抜きや遊びも大切にしながら、自分ができる活動を続けています。



松本さんが保護した犬たち

●将来の目標

ゼロカミスプロジェクトでは、始動から5年後の2027年には、神栖市の野良犬をゼロにするというビジョンを掲げています。

プロジェクトの活動をとおして、学校に行きたくても行くことができない子どもたちが、保護犬とのふれあいやお世話を通じて本来の自分らしさを取り戻し成長する姿を何度も目の当たりにしました。一人の人が、一匹の犬に特別に手をかけるということは、犬にとっても人にとっても良い影響があります。

今後は、保護犬・保護猫活動と一緒に、「生きづらさ」を感じている子どもたちのお手伝いもできたらいいなと思います。フリースクール開設に向け、クラウドファンディングを開始しました。学校でも家でもない、もう一つの居場所をつくるのが今の目標です。

犬・猫の気持ちを思い、時折、涙を流しながら、インタビュに答える松本さんの優しい姿が印象的でした。一人の力ではできないことも、多くの方の力を借りながら一歩一歩、着実に歩んできた保護活動をたくさんの方々に知ってもらい、神栖市から野良犬・野良猫をゼロにできるよう祈っています。



親子で みんなで
考えてみよう

ピーマンタイム

クイズ

だんじょきょうどうさんかくしゃかい 男女共同参画社会って？

男女共同参画とは、性別に関係なく、一人ひとりが自分らしさを大切にできる社会のことです。今回のピーマンタイムは3つの問題を用意しました。

問1

「男性だから●●すべきだ」「女性だから●●であるべきだ」という考えは○○○○○○○・バイアスといって無意識の思い込みです。(ヒント：P2に出てくる言葉です)

問2

ジェンダーギャップとは、男女の違いによる格差のことを指します。2024年のジェンダーギャップ指数で日本の順位は146カ国中118位でした。女性リーダーが少ないことが原因のひとつとして考えられます。ジェンダーギャップ指数が15年連続1位の国があります。その国は北欧の島国・ア○○○○○です。この国では1980年に、世界で初めて女性大統領が誕生しました。

問3

あなたは「無意識の思い込み」や「ジェンダーギャップ」についてどう思いますか？改善するためにどんなことができると思いますか？

★正解者全員にオリジナルふせんをプレゼント★

【引換方法】任意の用紙に ①答え ②ハートフルかみすへの意見や感想 ③氏名を記入し、市民協働課(本庁2階)へ持参

※②については、次号以降の読者の声に掲載させていただく場合があります。

【引換期間】2025年4月30日(水)まで



たくさん
応募してね！



©神栖市

読者の声

神栖に仏像修復師という仕事をしている方がいるということに驚き、活躍されている姿に感動しました。頑張ってください。

輝くひと

2

家族や仲間とともに

NPO法人

ハートスペースあゆみ

副理事長 青木国子さん

土合地域にある「ハートスペースあゆみ」で精神障がい者の就労支援をしている青木さんにお話を伺いました。

●活動内容

青木さんは、10年前に同施設理事長の浅田さんとNPO法人ハートスペースあゆみを設立し、内職や畑仕事のほか不動産会社から委託される物件周辺の清掃や除草作業などを通して、統合失調症やうつ病などの精神障がいを持つ方の就労をサポートしています。

精神障がいと一口に言っても症状はさまざまで、一人ひとりの症状に合わせた働き方を支援しています。例えば、人と話すことが苦手な方には、

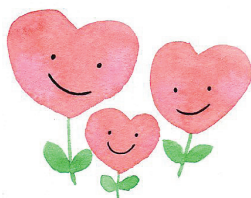
自宅での内職をお願いすることもあるのと、また、青木さんが父親から譲



り受けた土地を活用して野菜などを作り、イベントで販売もしています。

●家族が原点

青木さんの弟さんは、現代でいう発達障害でした。子どもの頃にいじめにあい、15歳の時に精神障がいを発症しました。弟さんは、母親の畑仕事を手伝っていましたが、母親が重い病気になる、畑仕事ができなくなってしまいました。弟さんの居場所を探して、精神障がい者デイケアにお世話になり、そのデイケアの家族の会で浅田さんとの会いました。仲良くなったお二人は、精神障がいについて何度も話をしたり勉強したりしていくうちに、精神障がい者が働くところがない、という話になり、NPO設立に向けて動き出しました。



●60歳を過ぎてからの挑戦

神栖市には、学校に登校したくてもできない児童・生徒を支援する登校支援教室が2カ所設置されています。青木さんはその登校支援教室で、60歳まで職員をされていました。退職後、長く福祉の仕事に携わっていた浅田さんと、いよいよNPOの設立をするこ

は煩雑で、設立に至るまでには、大変な苦労がありました。

●やりがい

ハートスペースあゆみの大きな役割は、精神障がい者の居場所をつくることです。同じ悩みを持つ仲間がいて、病気や薬のこと、病院の話など、当事者同士でしかできない話を気兼ねなくできる場があることは、利用者の心の支えとなります。利用者がハートスペースあゆみでの活動を通して、前ま

●自分自身の心のケア

音楽大学出身の青木さんは、「歌うことがストレス発散」と笑顔で話します。以前は、毎年仲間とコンサートを



令和6年12月に開催されたかみす福祉まつりで、事業所で作った野菜や小物を販売している様子

開いたり、合唱団の指導をしていました。現在は、神栖市民音楽祭で第九を歌うために毎週レッスンに通ったり、教会で賛美歌を歌ったりしているそうです。また、スイミングやリラックスヨガもするそうで、「体を動かしているときは、無心になって、頭がリセットされます。昨年70歳になりましたが、体を鍛えることで健康寿命を延ばして、みんなと作業を続けていきたい」と話してくれました。

●今望むこと

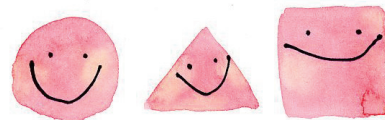
精神障がいの福祉については、遅れていると感じるところがあります。まずは医療福祉制度などが充実してくれることを望みます。

「障がい福祉とは、障がいのある方が自らの望む生活を営むことができるように支援することです。それにはまだまだ精神障がい者の賃金は低い

で、もう少し上がってほしいです」

また、「ダイバー

シティ(多様性)やインクルーシブ(包括的)といわれている時代だからこそ、精神の病気だからと色眼鏡で見ないで、ひとりの人として向き合ってもらえるような社会になるとうれしいです」とおっしゃっていました。



インタビューの最後に青木さんは、「弟と家族として歩んできた歴史があるから、今の自分自身があると思っています。苦労や失敗もたくさんありましたが、さまざまな経験ができたことは弟に感謝しています」と明るく話してくれました。息子さんには、「やりたいことをやっていて、いいんじゃない」と言われたことがあるそうです。ご自身の心のケアもしっかりされ、いきいきと活躍されていると感じました。

家族やたくさんの人を支援してきた青木さん、これからもお元気で支援活動が続けられますよう応援しています。

男女共同参画セミナー

夏休み 小学生工場見学バスツアー

2024年8月22日 鹿島石油株式会社 鹿島製油所

性別にかかわらず、さまざまな分野の仕事に興味を持ってもらえるように、工場見学を実施しました。事前に応募いただいた市内の小学5・6年生(16名)が、夏休みに鹿島石油株式会社 鹿島製油所で、構内見学やドローンの操縦体験などを通して、楽しみながら学びました。

ドローン飛行見学

大きなドローンを近くで見たり、ドローンのカメラで空から撮影した映像を見たりしました。



構内見学、質疑応答

広い構内をバスに乗って見学しました。大きなタンクや設備に興味津々。社員から説明を受け、熱心に聞いていました。



ドローン操縦体験

数メートル先にあるフラフープの中にドローンを着地させる体験をしました。みんなとても上手に操縦できました。



参加者の声 「ドローン操縦が楽しかった!」 「工場内の機械の大きさと数にびっくりした」

ライフデザインセミナー

10代から考えておきたい将来のこと

2024年12月9日 神栖高校、12月10日 波崎柳川高校、2025年1月22日 波崎高校

これからさまざまなライフイベントに向き合う高校生が、多様な生き方の選択肢を知り、人生設計について考えるきっかけをつくるため、市内高校3校でライフデザインセミナーを開催しました。



講師 山田 亮 氏
家事ジャーナリスト、社会福祉士。大学助手だった妻と結婚し、主夫に。男性の家事・育児参加、男女共同参画に関する講演や執筆等を行なう。



セミナーでは、事前に行なったアンケート結果をもとに、講師の実体験も交えながら、お話しいただきました。「今は性別に関係なく仕事も家事もする時代。自分の事が自分でできる『自事』が大事」という話を生徒たちは興味深く聞いていました。最後は、「自分がシンドイ時に共感してもらえる人がパートナーだと、自分が楽になる。『ありがとう』と心を込めて言える相手を見つけてもらいたい」と締めくくられました。

生徒たちの声

「人生の転機では慎重な選択が大事であることが分かった」
「相手を選ぶときにはしっかり対話ができる人がよいということに、共感した」

未来へつなぐ一歩

市で実施したセミナーを紹介します

読者の声

ハートフルかみずで身近な情報を知ることができます。この地域では、女性は家事・育児をするものという意識が強く、男性の参加が少ないのが現状。協力し合う社会であってほしい。

Thank you ♥

男女共同参画デジタルフォトコンテスト 入賞作品結果発表

市民の皆さんに男女共同参画について理解と関心を深めていただくため、毎年作品を募集しています。
今年度は「小さなチャレンジ 輝く瞬間」をテーマにデジタルフォトを募集しました。
入賞作品を紹介します。

最優秀賞

2024年9月29日にカシマサッカー
スタジアムで開催された「JFAユニ
クロサッカーキッズin茨城」に幼稚園
の年少さんで参加しました。初
めてサッカーの試合に参加したが、一生懸命ボールを追いかけるか
わいい姿に感動しました。
(匿名希望)



優秀賞

2歳になってパン作りに挑戦！
お手伝いが大好きです。これか
らもたくさんお手伝いしてね。
(鈴木美穂様)



保育園から帰ってきて、祖
母とスコーンを作るのが日
課になっています。最近
は「次は牛乳だね！次はバ
ターだね！」とレシピを覚
えてきています。
(栗林美憂様)



地元のピーマンを使っ
て、小学生と波崎女性
部の皆さんと一緒に調
理実習をしました。
(匿名希望)



入賞

ゲップがなかなか出ず
挑戦中。パパも頑張っ
ています。
(高村雪乃様)

編集委員

●安藤委員

●柴田委員

●伊藤委員

●遠藤委員

男女共同参画情報誌

ハートフルかみす

Mar.2025 Vol.43

【編集・発行】

神栖市男女共同参画情報誌編集委員／企画部市民協働課

〒314-0192 神栖市溝口4991-5

TEL0299-90-1171 FAX0299-95-9920

URL <https://www.city.kamisu.ibaraki.jp/>



茨城県内の魅力を伝える“電子書棚”ポータルサイト「イバラキイーブックス」

ibaraki ebooks



QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。